

鶉野慕情 1

1965年卒 知野 進一

夜の訪問者

たまのバイト無しの夜、下宿でのんびりしていると鳥田さんが来訪。先輩の方からこられるとは、麻雀の時はこっちから行くのにと、不吉な予感。真剣な顔で小生に依頼とも脅迫とも泣き落としともつかぬ言説を開陳される。

翔友VIの“特集滑空場物語”に掲載の「鶉野の発見」にあるように、樺島君の発見から部としての意見がまとまり、特に「窪田がどうしてもやりたいと言うんだ」というのが来訪の趣旨。具体的には「滑走路にあいている穴をなんとかせねばならない、皆で埋めに行こう」ということ。

人力でできるような作業ではないと思ったが、結局は「分かりました」ということに。

荷台で現場へ

末吉君の軽トラック（今よりずっと小さい）に乗って、現場へ向かうことに。

前の座席には2名乗れるが、小生ともう一人は荷台に乗って行ったと思う。京都から神戸を通して現場へ、しかし京都からずっと荷台に乗っていたのかな、それとも神戸までは電車で行ったのか。警察もおおらかだったのですな、おとがめなし。粟生とか法華口とか北条とか全く聞いたことのない地名。場所の見当もつかない。末吉君はすでに樺島君と行っていたのか、それとも初めてだったのか。

後には電車で行くようになったが、京都から阪急電車十三乗り換えて神戸へ、新開地から神戸電鉄で鈴蘭台へ、ここで粟生線に乗り換え粟生へ、粟生で国鉄（現JR）北条線（現神戸電鉄北条線）に乗り換えて法華口へ、そこからかなり歩いて現場へというルートで随分時間を要した。

蜂の一刺し

穴といっても、簡単なものではない。進駐軍が飛行場を使用不能にするために爆破したもので（日本軍が終戦時にやったという話もあった）、滑走路を横切って5、6個、それが何列もあり、永年の間に木が生えている。一見して重機がなければだめ。でもダメとは言えない。黙々と作業。皆が何回も作業に通いました。ある時窪田さんがすずめ蜂の大群に刺されて大変なことに、病院に担ぎ込んだのではなかったか。それもあったか、完全には埋められない、上手く操縦すれば十分離着陸できる、曳航車も運転に注意すれば引けるといふことになり、ある程度で終了となりました。

今だったら絶対許可が出ない。でも小生一回穴にひっかけて翼端を破損、八尾から整備士の方に来ていただいて修理する羽目に。あの時交通費とか日当とかどうしたんだろう。払った覚えがない。

御住職の慈悲

合宿するには泊るところがいる、周りは戦後の引揚者が開拓に入ったところで、もちろん旅館も飯場もない。お寺を探しました。小さなお寺がありました。御住職に頼みました。もちろん最初はダメ。奥様も、私は体の調子が悪くとても多人数に三食なんか作れない、仕出し屋もないとおっしゃる。昼はおにぎりでもいいですからとか言って、半ば拝み倒してとにかくやってみてくださいということに。ありがたいことでした。奥様はどうやってご飯の用意をしてくださったのか。かわいい犬がいましたね。

布団は、一番安い貸布団をピックアップトラックの荷台と、曳航車のイカレポンテ（1950年代のアメ車、ポンティアックのこと）の後部座席にぎ

っしり詰め込んで持ち込みました。最初の合宿では学連の八木教官に来ていただきました。別室を用意できず、皆と本堂で雑魚寝、よく辛抱してくださいました。

手作りトレーラー

やっと買った「イオラス」（イはAEのギリシャ風2重母音 小野先生も凝ったものです）、八尾だけなら格納庫に入れておけばいいが、他所でやるとなると運搬しなければならない。大型トラックに頼むと大変お金がかかる。そこでトレーラーが必要となる。

京都の南の方のジャンク屋へ。そこでタイヤ付きの車軸を購入、大洋鉄工へ。大将は、どうせまともなお金はもらえない、大事なところは手伝うが、後は自分たちでやりなという態度。ここからが玉井君の出番。彼はとにかく指がきく、数名の助手を使役して作りましたね。少し前後端が下がっているような気でしたが完成、彼はあっぱれ溶接工となりました。萩原製作所から送ってきた梱包箱をそのままトレーラーに乗せたのだと思います。鶉野へ行くときは名神を使ったような気がする。よく通れたものです、買ったばかりの無線を使って、「ハイ玉井さんレーンを跨いでいますよ」、などと言っていると「うるさい!」。その後もトレーラーは大活躍。

イオラスの宿

これも下見の時に探していた地区の小さい集会所、住職さんに聞いていたのかな。分解した主翼を入れるのに結構苦労した記憶がある。どうやって使わせてもらったのだろうか？

樺島君が翔友VIに書いていたように、役場に接

触した記憶は全くない。もし集会があったら困ったでしょうね。

宿舎や機体置き場の正式な住所は最後まで知らなかった、〇〇〇字鶉野なのであろうが・・・。

最初の合宿から、野外繫留したのか、2回目からか覚えていない。でも関西で初めて野外繫留したのは間違いない。毎日ばらしては組み立てるのは大変、機体も傷んでしまう。小生仙台の霞の目飛行場での1か月の指導者講習会の後、慶応の妻沼での合宿に無理やり参加。それも関西からは初めてだったと思う。そこで野外繫留を見ていました。これしかないと上申して強引に実施。

ビニール問屋

モスキートは第2次大戦中のNO,1と思うが、（ムスタングという人もいよう）全木製、雨露に弱い。我がイオラスも同じ、カバーがいる。お前が作れとなるのが当然。最初は外形に沿った美しいのを考えましたが、テーパーやら支柱やらでっばりやらがあって大変。得意の横着さを生かして、5枚の封筒と数枚の大きな長方形のカバーにそれぞれたくさん鳩目を作って、そこに長い紐を付けることに。お金はかけられませんからね。市電から見えていた東本願寺の前の梱包資材屋さんに飛びこんで、頼んでみました。職人さん、最初は何を作りたいのか分からないし、面倒くさそうな様子でしたが、おかみさんが出てきて、「倅が同志社、学生さんの言うこと聞いてあげて」と言ってくれました。実費しか払っていない。ありがたいことでした。主翼の厚みの考慮が足りず、ちょっときちきちでしたが何とかおさまった。杭に支柱を縛り付けて OK。別に事故なし、番人もいないのに。

ミスターX

滑走路の三分の一あたりをゆるく斜めに生活道路が横切っており、たまには人や車が通る。訓練中は当番を出して、監視が必要、そこにある日忽然とミスターXが登場。折りたたみ椅子に座って交通整理を開始、ありがたかったです。どこのだれかは知らないけれど地元の人は知っている、寡黙な方でした。お互いペラペラ話はしてないが、グライダーが好きなのか、変な学生が走り回っているのがおもしろかったのか、戦前の記憶があるのか。かすかな噂では、酒作りか醤油作りとか。小生が班長の時はお礼の気持ちを込めて、撤収飛行の時に前席に乗ってもらいました。口元がかすかにほころんでいましたね。どうしておられるか、もうあっちかなー。

お汁粉処分

ある日、そのミスターXが宿舎にお汁粉の差し入れ、それも大きなお釜に（鍋ではない）一杯。最初は皆喜んで食べましたが、夕食の後なので食べきれない。そこでまた小生が、「残しちゃダメだ」と余計なことを。

食べてしまわないと申し訳ない派と、とても無理派とで喧嘩に。いま思い出しても申し訳なく、恥ずかしい思いです。戸田君が無理やり食べてくれたのであったか。班長失格。

欲が出ると

好天の日は、かなりのテルミックが発生、どんどん上がれる。最初はうれしいだけだがそのうち欲が出る。銀C取得の為の中研合宿以外、用の無かった記録を残したくなる。留守部隊の樺島君に自記記録高度計の調達を依頼する事に。急な事で

もあり大変だったと思います。それでも学連から借り出して送ってくれました、もうあまり我儘は言うなどの伝言付き。それだけ迷惑をかけたのに、結局はあまり活用していない。競技会ではないし、長く飛んでいると待っている人達に迷惑がかかるので適当に切り上げて下りなければならなかった、要は訓練ですからね。これも小生の失敗。

名古屋の山田さんほうまかった、下りるのにびゅうびゅう音が聞こえてくるすごい下降旋回、前席の訓練生が目を回すのではないかと心配。八木教官がもうちょっとゆるくせいやと無線で指示されました。

北条の湯屋

毎日滑走路を走りまわっているわけで、汗だらけ。風呂も必需品だが下見の時にはそこまで気がまわらなかった。お寺で聞くと、北条に銭湯が1軒有ると言われました。

ピックアップトラック（プリンスマイラーだったかなープリンスはもう無い）の荷台にぎっしり乗って北条へ、教官だけは、座席に乗ってもらいました。全員は乗れないので、半舷上陸でやりました。尋ね当てた銭湯は、小さく暗く、江戸時代の湯屋。天井に裸電球が一つ、湯船も洗い場も極端に狭い、そこへ一度に多人数が入るから大変。もし混浴だったら多少の事はしても分からない。

荷台の上で「高校3年生」等を歌っていました、我々にも青春は有ったのだ（女性抜きで）。1期下の岩崎君もいましたね。こんな乗り方でも警察に何か言われた事もなかった。

むちゃやで

最初の合宿ではないが、直敬さんに石元君と二

人で呼ばれて「あのな、ぐっと操縦桿を押して目いっぱいスピードをつける、それから思い切って引く、ぐーと上がるわな、ふらっとしたらどっちかのペダルをがーんと踏む、180度廻って下へ落ちる、それが上昇反転や、やってみ」。

同乗しての練習をした覚えがないのだが、まさかね。何のためにやらされたのか不明。本人は逆落とし位に押したつもりだが、はたから見れば大したことなかったのかも知れません。錐揉みに入るのではという恐れはありました。とにかく金玉がスーとした事は間違いない。

あっちの方へ

4回生になって、これまで苦労しながらあまり合宿に来られなかった同期の人達にも来てもらって、かの鶉野で飛んでもらう機会がありました。合宿最後の撤収飛行、一緒に乗った樺島君に、今日はどこまで上られるかやってみると言って、やりましたね。曳航索が600M位だったのかなー、離脱高度は大体300M。操縦桿を引きっぱなしでどんどん上がり、手ごたえが変わっても引き続け、機首を下げずにそのまま離脱、また高度を稼ぎました、離脱高度は秘密。当時曳航車のトランクの蓋を開いた状態で、その中にしゃがんで曳航監視をしていました。川上君が運悪く乗ってたんじゃないか。後輪が浮き上がって、イカレポンテが（あるいはキャデラックか）蛇行、下手したらひっくり返るところだったらしい。すみません、今だったら飛行停止でしょうね。

これも樺島君が翔友VIで書いていたが、初めてアーベントテルミックに遭遇、夕日に包まれてどこまで行っても、バリオ0。「このままずっと行ったら、あっちの方へ行っちゃうんじゃないか」今

でも忘れません、人に言ったこともない。

これは全くの後知恵ですが、「紅の豚」で宮崎監督が描いていた、撃墜された機体とパイロットがずうーと縦にならんでごくごく緩やかにどこかへ昇っていくシーンが有りました。こっちはしょせん学生の部活動、あっちは生き死に、比べるのも愚かですが。また旧鶉野飛行場は川西の紫電改製造工場の附属飛行場であり、海軍の訓練飛行場でもあったそうで、最後には年少の訓練生が特攻に出たとの事です。当時はそんなことはなんにも考えていなかった。

迷惑ばかり

これまで書いてきましたように、人に迷惑をかけっぱなし、お世話になりっぱなし。この原稿を書いているときでも、山小屋の寝床に入って天井を見ると汗をかきました。我々の知らないところで、一所懸命やってくださった方々の御寛恕を祈るのみです。

鶉野慕情 2

1968年卒 白石 美寿♫（旧姓高橋）

ひょんなことから原稿依頼を受け、ウへ〜という驚きです。

半世紀前の記憶を掘り起し、思い出すままに書いてみましたが、こんなのでいいのかどうか？

鶉野合宿は二回生の冬で、同立戦のための合宿だったと思います。教官は愛知の山田教官でした。生憎天气が悪く連日雨ばかりで、宿舎でよく卓球ばかりして過ごしました。若くして亡くなられた佐藤真二さんが、ウクレレだったか、ギターだったかを弾いていた事も思い出しています。

寒くて、寒くて、雹が降ったこともありました。

さて、肝心のグライダーと言えば、皆んな思うようには上手く飛ばず、それを天候のせいにしてしまい、山田教官はきっと不満に思っておられたに違いありません。

ある日の夜、家に電話するため、近くのお店に借りに行きました。もちろん携帯など無い時代、呼び出しにも時間がかかり、外で震えていると、お店のおじさんが中に入れてくれて、暖かいココアを淹れてくれました。あの美味しさは今も忘れられません。山田道っちゃん、一緒だったけど憶えていますか？

私にとっての「航空部」は、残念ながら空を舞うなんて夢のまた夢。ずーと地上を走っていました。

高松の五右衛門風呂では、お湯は底の方に少しあるだけ、垢だらけで入れませんでした。

色々失敗もしました。

山田裕章先輩、高松で後席に乗ってもらった時、高度が低すぎ、民家すれすれでぎりぎりの着地となってしまう、直敬さんに怒られて飛行場一周を命じられた事もありましたね。憶えていらっしゃるでしょうか？

こうして書いてみるだけで、いろいろなことが蘇ってきます。空腹、寒さ、眠さに耐えた合宿は、私にとって、青春そのものであり、貴重な体験でした。

鶉野は今・・・

—「鶉野」—、それは1964年卒から1970年卒までのOBには懐かしい地名である。とりわけ、1964年から67年の方々には、「う・ず・ら・の」という響きの中に、ある種名状し難い感懐と共に、田園風景の中に伸びる、爆破跡のある古い滑走路の風景を、言い知れぬ懐かしさで思い出すのではないだろうか。

何故なら、ここは紛れも無く同志社が発見し、前記の年代が、人海戦術で離着陸出来るまでに修復工事をし、播州平野の空にH23CイオラスJA2047を飛ばたかせた場所であるから・・・。

我らの「心のふる里」の一つが現在どうなっているかを見たくなり昨年9月、現地に行ってきた。当時は長閑な田園風景であったが、今や都市近郊の工業地帯となりつつある。

近く自衛隊から加西市に払い下げることが決定しており、跡地利用を市では防災関連施設の建設用地にするようである。

編集長



西端から東方向



西端



滑走路脇に、ここを訓練基地にしていた特攻隊の慰霊碑が設置されていた。



クロスする市道付近から東端方向

滑走路に接して建つ工場



法華口駅 1時間に1本上りと下りが交互に停車。 安養寺 本堂は鉄筋コンクリートになっていた。